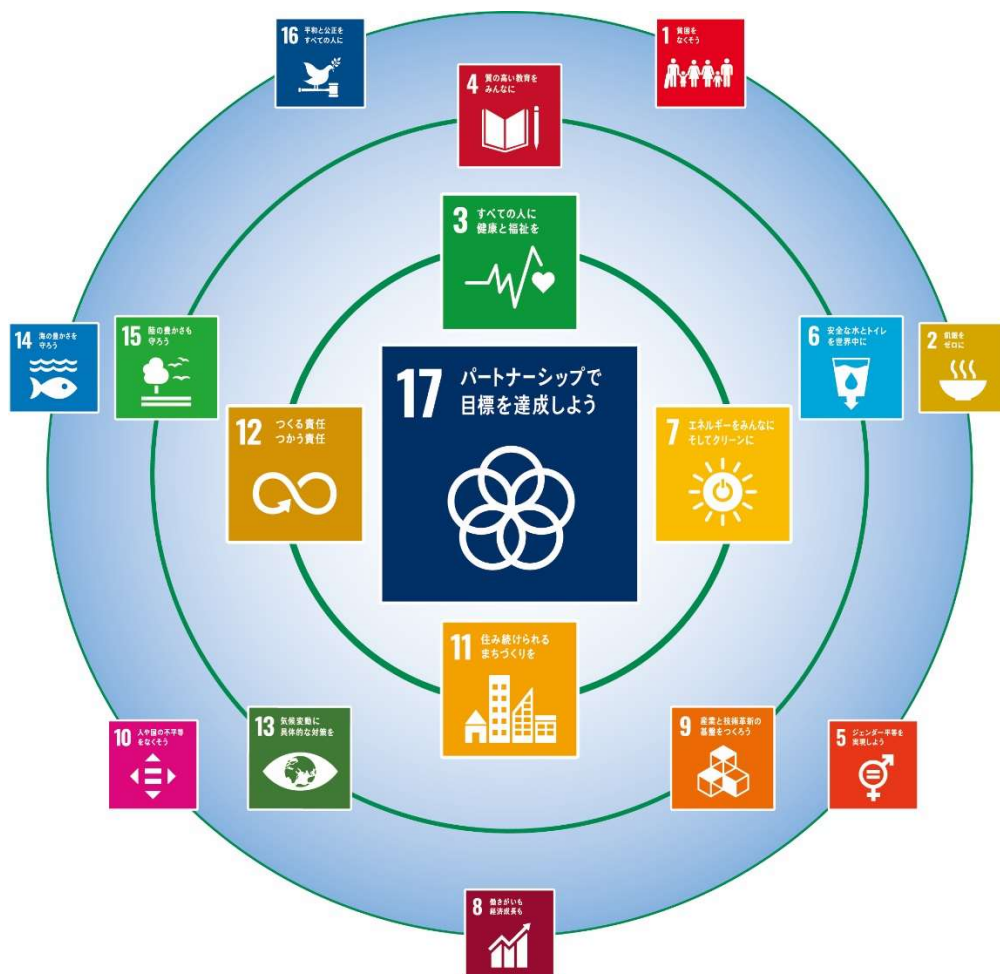


創設 30 周年を記念して kkj 版『SDGs パンフレット』を発行



kkj が捉える SDGs の各ゴール

現時点で貢献度が高くこれからも積極的に取り組むゴールほど大きく、中心に近い位置に配置しています。

- 創設 30 年目の取り組みとして、SDGs（持続可能な開発目標）への対応を整理
- これまでの活動は日本の住まいとまちづくりに関する SDGs の実践・普及に貢献
- 様々な業種から構成される協議会ならではの長を活かした SDGs マッピング
- 協議会スローガンに SDGs の取り組み姿勢を明記し、持続可能な社会の実現を目指す

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（会長：竹中宣雄）は、2015年9月、国連サミットにおいて採択された2030年までの国際目標「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標、略称SDGs）」との関連について整理したパンフレットを創設30周年の記念として発行いたします。

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（以下、kkj）の原点は、1992年のリオ「地球サミット」を見据え、建設省住宅局（当時）が自治体、専門家、研究者、建築家、関連業界等を束ね、1990年に創設された環境共生住宅研究会です。1992年に同研究会は、地球環境の保全、周辺環境との親和性、居住環境の健康・快適性を総合的に実現する住まい・まちづくりを目指し「環境共生住宅」を提唱しました。1994年には民間組織を主体として研究会の成果を継承する環境共生住宅推進会議に、1997年には環境共生住宅の普及を一層推進するため環境共生住宅推進協議会に、2009年には多方面の活動に対応するため一般社団法人化するなど時代のニーズに応じた組織の変遷を辿ってきました。

その間、環境共生住宅の事例検証、設計者もしくは住まい手にとって有益な情報を掲載した出版物の発行、各種設計支援ツールの開発・公開、関連分野で活躍されている方々の講演会や環境に配慮された建築物やまちなみ整理の見学会の開催など、全国レベルの活動を活発に継続しています。これらkkjが継続してきた取り組みは、日本の住まいとまちづくりに関するSDGsの持続的実践・普及に貢献しているものと考えます。

SDGsは2030年までに実行・達成すべき事項をした世界共通の目標です。本年、創設30周年を迎えるにあたり、環境共生住宅の要件やkkjがこれまで行ってきた活動とSDGsとの対応関係を整理し、これから先10年間の方向性や貢献できる分野について検討しました。

kkjは、住宅会社、建設会社、不動産、建材設備会社、エネルギー供給会社、公共団体、各種コンサルタントなど様々な業種から構成される団体です。こうしたkkjならではの長を活かし、SDGsのあらゆる目標に対して幅広い視点で貢献できる可能性を踏まえると、17の目標のうち「パートナーシップで目標を達成しよう」が最も大切にすべきものと考えます。この度のパンフレット作成を契機に、アソシエーションスローガンも改訂し、パートナーシップを大切にしながらSDGsのさまざまな目標に取り組む姿勢を明確にしました。

kkjは、これからもSDGsを基盤とした協議会活動を継続し、会員との連携をより一層図りながら、できるだけ幅広い分野で持続可能な社会の実現に貢献していく考えです。

■アソシエーションスローガン（令和2年5月改訂、下線部を追加）

私たち環境共生住宅推進協議会は、
地球環境を保全し、周辺環境と親和しながら、健康で快適に生活できる
「住まい・まち・暮らしの環境共生」という理念のもと、
四季折々の住まい方をふまえて心豊かな環境共生社会づくりに貢献します。
幅広い業種の会員とのパートナーシップを大切にしながら
SDGsのさまざまな目標に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

■パンフレット概要

- ・名称：kkj版「SDGsパンフレット」
- ・体裁：A4判 4ページ（表紙、裏表紙含む）
- ・配布先：kkj会員、取引先、官公庁など
- ・公開：WEBサイトにPDF版を掲載（公開日：令和2年6月9日）

掲載URL：<https://www.kkj.or.jp/contents/introduce/dl/kkj-sdgs.pdf>



以上

【この件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会 (kkj)

事務局：中田

Tel：03-6265-3242 Fax：03-6265-3243

E-mail：jimukyoku@kkj.or.jp